

京都大学の歩み

明治30年6月18日、勅令第209号が制定され、京都帝国大学が創立されました。最初は理工科大学が置かれ、続いて数年のうちに法科大学、医科大学、そして文科大学が置かれました。大正8年、「大学令」が施行され、京都帝国大学でも、法・医・工・文・理の各分科大学が学部改称されました。昭和22年、「帝国大学令」が改正され、「帝国大学」は「国立総合大学」と改められることになり、京都帝国大学も京都大学に改称されました。戦後、教育改革によって新たな教育制度が導入され、昭和24年、京都大学も、第三高等学校と附属医学専門部を包括して新制大学としてのスタートを切りました。一般教育も開始され、京都大学は宇治と吉田に分校を設置してこれに当たることになりました。

平成15年、「国立大学法人法」が施行され、平成16年に国立大学法人京都大学が発足しました。国の組織から制度上独立し学長の権限を強化することで、弾力的な大学運営及び教育研究の活性化につながるとされ、学外者を含めた学内管理体制が整備されました。

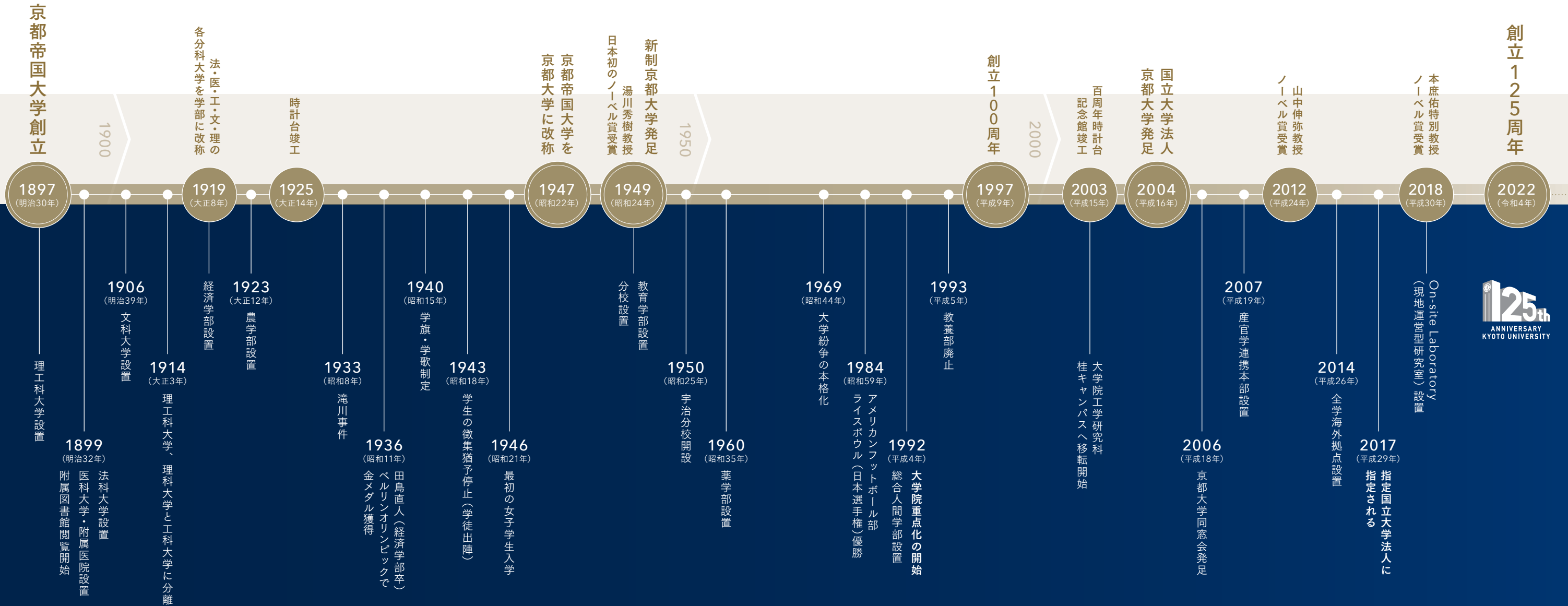
長い歴史の中で京都大学は、常に社会と共にあり、教育研究の改革・発展に挑み、京都の地で豊かな人材を輩出し続けています。



現在の吉田キャンパス（百周年時計台記念館）

京都大学の歩み

京都大学の歩み



正門と本館（1900年頃）



時計台前の学生たち（1928年頃）



大学院入学宣誓式の様子（1928）



学旗学歌制定式



分校正門（現在の吉田南構内）



湯川秀樹教授（1949）



山中伸弥教授 ノーベル賞授与式



本庶佑特別教授 ノーベル賞授与式